

# AJPS AJPS NEWS

ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE



- **RUGBY WORLD CUP '99** – 座談会「ラグビーワールドカップに想う」 –
- **PHOTO & ESSAY** – ROVING PHOTOGRAPHER –
- **DIGITAL CAMERA REPORT** – CANON EOS D6000 –
- **INFORMATION**



スポーツを主なる被写体にし始めた頃から、海への思いはどこかにあったような気がする。あることがきっかけで、数年前からサーフィンに魅了され、撮影する機会が増え続けている。

人間の力など全く通用しない自然の力、偉大さ。立ち向かうというより遊ばせもらおう。スポーツではあるが、記録は存在しない。

どちらかというと、ライフスタイル。サーフィンというより、サーファー達がおもしろい。海と人間との関係。かなり、奥が深いのである。

撮影者  
プロフィール

木下 健二  
KENJI KINOSHITA



1955年9月26日 東京都生まれ。

自由学園卒 (府)プレスプラス代表年、3分の1は、スキー、スノーボードの撮影のために、雪の世界へ、雪解けとともに、他の被写体を求める、世界中を駆けめぐる。最近はどこかの海にいることが多くなった。

## 目次 CONTENTS

### 3 RUGBY WORLD CUP '99

座談会

ラグビーワールドカップに想う

### 8 PHOTO & ESSAY

「ROVING PHOTOGRAPHER」

### 10 DIGITAL CAMERA REPORT - CANON EOS D6000 -

### 12 INFORMATION

## ちょっと相撲から一休み

石田 三千代

ひと月おきに忙しかったり一息ついたり。この3年間、私の生活はそんな感じだ。この6月もそう。今月は一息つけた。なぜかといえば、大相撲の本場所がなかったからだ。相撲記者ではないけれど、96年から続けてきたスポーツ専門のホームページは、なぜかメインが相撲になっている。場所中とそうでない時では、訪問者の人数が1日あたりで100人くらい変わっている(個人のホームページとしてはかなりの数字だと思います)。

説明が遅くなつたが、私は日本のスポーツを英語で紹介するホームページを運営している。自分で、こんなサイトは日本で唯一のものと自負している。日本でメジャーと思われるプロ野球、サッカー、ボクシングからオリンピックでの日本選手の活躍を紹介する項目も設けている。

私のページには、日本のスポーツに関する様々な質問が、世界中から毎日のように送られてくる。質問が多いのは、何といっても相撲に集中してしまう。アメリカ、ヨーロッパ各国、アジア各国とファンはグローバルだ。

「日本に行くのだが、お相撲のチケットは手に入るのか?」「どこに行けば買えるのか?」といった質問が結構多い。相撲は海外公演で評判は上々というけれど、ここまで熱心なファンが本当にいるのかと、このホームページを続ける中で改めて実感している。いつの頃からか、私は毎場所毎場所、主だった取り組みを、まるでラジオ解説のように描く事に、すべての能力を注ぎ込んでいる。

ところが私は今年、シンガポールのテレビ局に就職してしまった。私は今、そのテレビ局の唯一の東京特派員だ。唯一といふ事で、仕事はかなり忙しかったりする。本業が忙しい時ホームページのアップデートはかなりきつい。一度、千秋楽について書けなかったことがあった。シンガポールに出張に行ったためだ。一応、タイトルページには、多忙のためアップデートが遅れますとお断りを記したのだけれど、お怒りのメールがきてしまったのは驚いた。

「やるんだったら、ちゃんとやれ! できないならやめちまえ!」みたいなメールが英語で入る。これはちょっと心外だった。

「シンガポールにいてできる訳ないだろう!」

返事を書いたもののメールは不着のお知らせとともに返ってきた。そんなわけで、私が昔から好きだった相撲が今では、書くブレッシャーになってしまっている。7月4日、名古屋場所初日。新横綱の初めての本場所での土俵入。また、新しい情報が要求される。早く8月にならないかな。

石田三千代のホームページSPORTS INFO JAPAN

(<http://www.t3.rim.or.jp/~sports>)にアクセスしてみて下さい。

## 座談会 「ラグビーワールドカップに想う」

春口 廣氏(関東学院大学ラグビー部監督)、藤島 大氏(スポーツジャーナリスト)に聞く

聞き手・山崎浩子



ワールドカップの前哨戦となったパシフィック・リーグ。日本代表は初戦カナダに23-21で辛勝のあと、トンガと対戦。44-17で快勝した。この試合で日本のSO庄瀬は1試合で9PGを上げる世界新記録を樹立した。

photo by Shinji Akagi

### 指導者は独裁者であるべき

山崎 まずは、関東学院大学を指導されて25年。大学選手権二連覇を果たされた春口先生に、25年をざっと振り返っていただきましょう。

春口 とにかく何もないところから始めてきました。気楽だったし、OBもいないし。最初は部員も8人でした。

本当に手取り足取りの指導で楽しかった。リーグ戦グループの3部からスタートして、7年目で1部へ昇格しました。その時でも部員は26人。90年に初優勝しましたが、そのころようやく専用のグラウンドができ、部員も100人を越えた。

そうなると、部員一人ひとりに目が届かなくなり、全員でそろって何かしようということができない。派閥みたいなものができます。4年間で1試合も出れず卒業しちゃう部員が出てくる。そうなってくると辛くなってくる。

山崎 最初は生活面の何から何まで見ていましたが。

春口 そう。よく部員を連れて「ウチで飯でも食ってけ」というんだけど、女房が隠れていたもの。強くな

ると秋宮でラグビーができる、というんで入部希望者が来るわ来るわ。最高210人までいたかな。うちのグラウンドは3面芝生なんだけど、手分けしてラグビー部だけ維持していくのも、人數的に余裕があったからでしょう。現在は部員は152名です。ほとんどの部員が寮に入っています。

山崎 藤島さんは今でも早稲田のコーチをされているようですが、指導者の立場で関東学院のラグビーに対してどのような印象をお持ちですか。

藤島 やはりラグビーの質が圧倒的に高いと思います。一つひとつプレーが正確です。それにルールというものを理解してモダンなものをきちんと消化して戦っている。だから、強いチームのあるべきラグビーだと思います。もうひとつは、日本のラグビーは、情熱的でエネルギーッシュで知性的な指導者が何十年も自分の手塙にかけて育ててきたチーム、つまり新興校が伝統校に挑戦して倒し進歩してきたという歴史があります。そもそも早稲田、明治も新興だったわけで新しい可能性が日本のラ

ギーを育ててきたわけです。そういった意味で関東学院を一人で育ててきた春口さんは第二の大西鐵之祐であり北島忠治でもあるわけですね。

日本でのラグビーにすばらしい貢献をしていることは間違いないですね。

山崎 関東学院が強くなってきたことには、マスコミもおむね好意的だったと思うんですが。

春口 それは無名の選手で勝ったからでしょう。要するに強くなるには、金を使って有名選手を集めればいいんだけれども、世の中がそういう傾向にある時にウチは無名選手だけで指導して少しずつ強くなっちゃった。

そういうチームを作っていたという意味では、僕も自信を持っている。ただ、一人の力には限界があって、30人くらいの時代はいいけど、強くなって有名選手も入ってきたここ10年は辛いですね。最初の10年は本当に楽しかった。

藤島 以前に北島忠治さんのことを調べたことがあるんですが、昭和20年代、30年代はじめくらいまで北島さんはものすごい理論的な論文を新聞なんかで発表されています。たとえばオーストラリアのラインは浅

くてタメがないからウチはこう攻めるとか、早明戦の前にグラウンド回りに幕を張って特別な戦法を練習したりとか。しかし、あるときを境に口を出さなくなる。やはり、一人でやるには限界があると悟られたんじゃないですかね。それは今となつてはわからないんですけど、それがまた凄いところだと思います。

**春口** 僕もここ2年、ニュージーランドからグリーンコーチを招いた関係であり口を出さなかった。ただ昔、大西鐵之祐さんが「チームは私物化しないと強くならん」と言われたのが印象に残っているんです。指導者は強烈なものを持たなければならないだろうし、たぶん大西さんもかなり頑固だったと思うんですよ。「お前なんか絶対に使うか」なんてこともあったと思う。



春口 広 Hiroshi HARUGUCHI

1949年、愛知県に生まれる。愛知高校2年からラグビーをはじめ、日体大を経て指導者の道を歩む。1974年に関東学院大学に奉職。当時、関東大学ラグビーリーグ戦グループ3部だったチームを7年で1部にあげた。1991年に日本代表のコーチとして第2回ワールドカップに参加。1990年にリーグ戦初優勝。1998、1999年に大学選手権で二連覇を達成した。現在、関東学院大学経済学部教授。

**藤島** 僕は大西さんに最後に師事したというか、亡くなる5日前まで教えを受けていたんですが、本当にそうです。メンバーは自分ですべて決めるし。ただ、それを冷たく伝えないところが天才というか、ひじょうに人間味がある。それは天才だと思います。勉強して身につくものでないし、「ばか」と言われてもスーとひかれるものがあった。そして

ラグビーに関しては独裁者なんですけど、その他のことはひじょうにリベラルなんですよ。僕が就職もしないでブラブラしていた時も「インドでも行って勉強してこい」と就職しろなんて一言も言わなかっただ。プレイヤーとしてはスパンと切られましたから、嫌いになってしまっていいんだけれど僕は好きんですよ、大西さん。

**春口** 僕も好きだった。若い時から協会の仕事で大西さんと交友があつたんですが、僕は当時の幹部の方々に可愛がられて食事とかにも連れて行ってもらっていた。大西さんは僕のことを「夜の帝王」と名付けてくれたほど。

**藤島** ウェールズにカーヴィン・ジェームスという有名なコーチがいるんですが、ブリティッシュ・ライオネンズ(イギリス4協会の選抜チーム)でニュージーランドのオールブラックスに勝って、あヒラネスリーというクラブでオールブラックスに勝ったり、バーバリアンズ(イギリス4協会の選抜チーム)、ブリティッシュ・ライオネンズが海外遠征時に結成されるのに対し、バーバリアンズは来征チームを迎かえ討つ時に結成される)のコーチとして3回オールブラックスに勝っています。その人の著書に、僕の大好きな言葉ですが「ラグビーのコーチというものは、もっとも慈悲深く、もっとも聰明なる独裁者であるべきだ」と書いてある。大西さんも「あいつは本物や。ウェールズ民族をしている」と評していました。

**春口** 作りあげたんだよね。本当にすごかった。

**藤島** 大西さんは3回も高等学院を花園に連れていっています。平成2年度は3回戦で大工大に引き分けで抽選負けしている。あれは勝てた試合だった。

**春口** 経験の少ない高校生だものね。指導者の力は大きいと思う。

**藤島** とにかく久我山に勝ったのはすごい。当時はスクラムも押されませんでした。早明戦で早稲田が勝つなんてもんじゃありません。

にまかせて欲しい、なんて部員が言ってくるわけ。おい、ちょっと待ってくれ。監督は僕なんだから、僕の方針に従ってくれなきゃ困る、っていうんだが、部員は分かってくれない。

**藤島** 大西さんの口ゲセでしたが「コーチが自主性というものを握っている。コーチなしで部員が全部やるんだったらコーチなんかいなきゃいいんだ」と。学生が全部やるのは、それは立派なことだが、それでは負ける。コーチが自分で指導していくに学生の自主性にまかせるというのはおかしい。それは卑怯だ。全部自分でやるんだ、と大西さんは常に言っていました。

**春口** 「夜の帝王」なんて言われたけれど、大西さんのそんな話をいろいろな所で聞いてためになりましたよ。

**藤島** 大西さんの話になると止まらなくなっちゃうんですよ。今、本を書いています。

**春口** いいねえ。

**藤島** 一番すごかったのは、早稲田高等学院を指導して国学院久我山に勝ったことです。昭和52年度でしたか。

**春口** そうそう。本城、吉野なんかが2年の時で、翌年その久我山が全国制覇している。

**藤島** あれはできないですよ。あんないよろひよろの鉛筆よりも重いものを持ったことがない選手を鍛えたんですから。

**春口** 作りあげたんだよね。本当にすごかった。

**藤島** 大西さんは3回も高等学院を花園に連れていっています。平成2年度は3回戦で大工大に引き分けで抽選負けしている。あれは勝てた試合だった。

**春口** 経験の少ない高校生だものね。指導者の力は大きいと思う。

**藤島** とにかく久我山に勝ったのはすごい。当時はスクラムも押されませんでした。早明戦で早稲田が勝つなんてもんじゃありません。

### 問われる日本代表のステータス

**山崎** ところで、現在の日本代表のことですが、今までのお二人のお話しでは、チームというものは長い時間をかけて一人の指導者が作り上げていくものだという印象を持ちました。今日本の代表は、良い選手をパッととりあげて取り込んでしまうところがありますね。そうすると元からやっていた選手は、やる気がなくなってしまうんじゃないですか。

**春口** 確かにその通りなんですよ。今年の3月にウチを卒業した前のキャップテンの立川は、パシフィックリムのカナダ戦で途中出場して日本代表のキャップをもらったんだけど、抜擢といえば言葉はいいが、少しおかしいような気もする。これまで、まったくなんの代表にも選ばれていなくて、東芝府中に就職は決まっていただけど一度も練習していない。それでもジャパンですよ。これまで積み重ねてきた合宿とか、セレクションは何だったの、と聞かれると答えに窮しますよね。それと例の外国人選手を6人入れた問題。

**山崎** あれは簡単に代表資格というものが手に入るんですか。

**藤島** 3年間、日本のチームに在籍すればOKです。

**山崎** サッカーは帰化して日本国籍をとらなければ代表にはなれませんよね。

**藤島** ラグビーは所属協会主義。基本的に所属している協会の代表選手になります。しかし、2001年から一度ある国(日本)の代表選手になると、別の代表選手になることができなくなります。

**山崎** そうすると、今が過度期というか使いどころみたいなルールですね。

**藤島** 外国のジャーナリストの多くは次のように言っています。強い国(日本)の代表になった選手は、弱い国(日本)の代表になってはいけない、と。まあ、逆はいいだろうが。たとえば、マニューミックがオールブラックスになるのはいいが、パショップが日本代表

になるのは良くない。これも難しい問題です。

**山崎** 外国人選手を6人入れることで日本のレベルは確実に上がっているんでしょうか。

**藤島** 一緒に練習している選手は、うまくなっていると思います。ただ、これが日本のためになるかどうか。協会関係者は良いプレーを見れば手本になると言っている。

**春口** 同じポジションの選手が果たしてうまくなるかどうかというと、良くならないでしょうね。日本の中ではロックが育たない。ナンバーエイトも育ててこない。それは、トップチームの多くが、外国人選手を使っているからです。スクラムハーフだって外国から一流がきてしまえば日本人の出番はないです。無理ですよ、全然違う。

**藤島** 同感です。パショップの登場は思考を停止させますよ。ジャパンをどうするのか。ジャーナリストの立場で考えても、冗談抜きでフルバックにミルンみたいなステディーでしっかりした選手を置いて外国人7人にしてもいいと思う。そうすれば、けっこボロ負けしない良いチームができると思う。ここまでできたら、もう1人ぐらい入れても良いと思う。

**春口** ヘイスティングを使ってもおもしろい。

**山崎** そんなに入れててもかまわないですか。

**藤島** 規則は別にないんです。空気ですね。だいたいこれくらいか、という。

**山崎** 規則はない?

**藤島** だんだん増えてきた。最初は国内ルールが1チーム3人までだったんで暗黙の了解で3人ということになっていたが、国際ルールには制限がないのでどんどん緩んできた。

**山崎** 勝てば注目されますから、そういうこともあるんでしょう。ラグビーの人気という点で。

**藤島** スコアは整うでしょう。それだけが目的だと問題ですが、昔、大西さんに質問したことがあるんで

す。トンガの選手をジャパンに入れても構わないかと。そうしたら「それは構わない。ただ先にチームを作つておいて彼らを当てはめるのはいいが、チームを作る前に彼らを入れると彼らに引きづられて日本の良さが死んでしまう」と。春口さんもジャパンの一員として行かれていますが1991年の第2回のワールドカップ、宿澤監督のチームに、たとえばマーチン・ブルックとか198cmの長身ロックを入れれば、それだけで随分チームが変わります。ロックが1人入るだけでガラッと違う良いチームになります。



藤島 大 Dai FUJISHIMA

1961年、東京都生まれ。都立秋川高校、早稲田大学第二文学部卒。高校、大学でラグビー部に所属。卒業後、雑誌編集記者を経て1986年スポーツニッポン新聞東京本社に入社。ラグビー、ボクシングを主に担当。1992年に同社を退社しフリーランスに。ラグビーのワールドカップは第1回から取材している。著書に「ラグビー特別便」(スキージャーナル)などがある。

**山崎** ところで、その外国人選手とボジションを争う日本人プレイヤーは、もう少し頑張れば同じレベルに到達する、と思っているんでしょう。モチベーションを上げる動機づけになるといふと思うんです。

**春口** 僕は大学でラグビーを指導していてジャパンにどう繋ぐかは考えています。ところが、自分がジャパンを指導できるか、と問われると、絶対にできないと思うんです。それと同じで、選手たちも日本のレベルで育ってきた選手は、日本の土壤でしかプレーできないと考えているんです。だからニュージーランド、英

国、南アフリカの土壤を理解するには、そこに飛び込んでいくしかないと思う。サッカーの中田がイタリアに行ったのと同じようにラグビーの選手も本場と言われるところへ行ってみるしかない。ウチのOBの箕内をオックスフォードに留学させたのも同様のことです。だから箕内は外国人選手とプレーしても、少なくとも日本だけしかラグビーをやったことのないやつよりは、理解できるでしょう。外国人6人がジャパンに入った時、箕内はまちがいなくモチベーションを高めることができる。しかし、関東学院でしかやったことのない淵上がバショップのバスを受けても、ただボールを受けるだけの話でしょ。そこが違うと思う。

藤島 今のジャパンに外国人が6人いる。たとえばバショップが後から入ってきてジャパンのオリジナリティーは出ないでしょう。もう、発想が違う。ジャパンだって、ある程度練習しないと勝てない。ジャパンだって調整するわけですから。向こうの2倍くらい練習するわけです。そこまで外国人は日本チーム内で練習しない。疲れちゃう。



春口 やらないでしょう。彼らは日本ではやらない。ただ前回のワールドカップで南アフリカへ行ったとき、南アフリカの代表がスクランブルをがんがん組んでいた。びっくりしました。ジャパンの連中もびっくりしていました。

藤島 僕も見ていて時計で計ったら43分、フォワードだけでコンビネーションをやっていた。コーチが笛を吹いたら選手が犬みたいに集まっていた。一流選手も、やる時はやる。

### 自主性のはき違いが問題

春口 その違い、とても感じるね。この春ニュージーランドの学生選抜が来日してウチのグラウンドで練習したんだけど、もうコーチがセレクターで全権を持っていた。

藤島 そういうものだ、という感覚ですね。

春口 絶対、という感じだね。

藤島 早稲田OBの益子コーチがオックスフォードへ行って18歳以下の若いプレーヤーの指導をしたのですが、そうすると向こうのプレーヤーは絶対服従だったそうです。日本から自費できている訳のわからないコーチに対しても一言の文句も言わない。日本流のスクランブルの組み方を練習しても黙って従う。練習終わったら「サンキュー」と言って全員から握手されたそうです。

春口 今の日本がおかしいところは、人からものを教えてもらうとき、姿勢を正して人の話を聞かない。集合、といってもタラタラとして来るわけ。ぶん殴らないからそうなるわけ。ちょっと違うと思う。

山崎 先日アメリカの大リーグのインディアンスのマイナーチームの合同トレーニングの取材を行ったんですが、指導者の一人が15分おきに笛を吹くんです。同じ練習をしているのですが、飽きないようにグラウンドを変えるんです。そうすると3歩以上はつねに全力疾走。私はアメリカ野球の印象というとガムでも噛みながら好きなように自主的に自分のトレーニングをしていると思っていた。それがそうではなかった。どうしてこういう体制でやっているのか、と質問すると「まだ若い人たちだから、まずは自己管理、自己管理をする前に、ある程度教えてやらなくちゃいけない。自己管理をする術をまだ知らないから」ということでした。

春口 一人じゃ無理かな。そういうところで早稲田なんか羨ましい。ものすごくプレーンがいるもの。ウチは、ようやくOBが指導者になって戻ってきつつあるところだもの。

藤島 確かに1人でやるのは大変ですが、強さはあると思う。民主主義

らされているという感じはしない。ずっと走っているんです。コーチが見ていなくても走っている。目的意識を持たせてやっているわけです。やらされている、という雰囲気はまったくない。170人の選手が見事に動いていく。

春口 軍隊の訓練みたい。

山崎 本当にそんな感じでした。

春口 僕は学生に口を酸っぱくして言っているのは、やらされている練習じゃ、うまくならないよ、と。自ら進んでやるのが自主性だと。自分勝手にやるのが自主性ではない。めざすものはこれだ、と説明して練習する。それでも少しきつい練習をすると「この練習は何の意味がある」って質問てくる部員がいる。前に説明しているにも関わらずね。

藤島 早稲田でも、もう少し自主的にやりたい、と言ってくる部員もいますよ。だけど関東で1位にもなれないチームが指導者なしで勝てるわけがない。マイク・タイソンだってトレーナーがいるわけです。タイソンもトレーナーの指導どおりのトレーニングをするわけですが、型どおりやっていても個性が出る。それは絶対に他人とは違うわけです。

山崎 自主性というのは、責任がともないます。自分に厳しくないと、どんどん楽な方へ走るという意味でインディアンスのキャンプは厳しい体制だけれども、コーチはほとんど口を出さない。簡単に教えたら駄目なんです。

藤島 アメリカは特にそうですね。弱肉強食というか、弱者救済という考えはない。この中から何人か上にあがれば良い、と思っている。

山崎 指導者が一人じゃ難しいですね。インディアンスも何十人というコーチがいました。

春口 一人じゃ無理かな。そういうところで早稲田なんか羨ましい。ものすごくプレーンがいるもの。ウチは、ようやくOBが指導者になって戻ってきつつあるところだもの。

藤島 確かに1人でやるのは大変ですが、強さはあると思う。民主主義

はナンバー2です。ひどいことにはなりませんけどね。自主性ということは大学生はどうしても言います。自主性なんて決まっているんですよ。自分が好きでやっているんですから。そのなかで、作戦はこれだよ、とかこういう練習をしようというのはコーチの仕事です。そうしないと成り立たない。

### チャレンジの精神を大切にしたい

山崎 ところで、ここ数年ラグビー日本一をきめる日本選手権の実施方法が毎年変わっています。関東学院は日本選手権をどのように位置づけているですか。

春口 今年の2月に戦うときに、社会人には負けるのが分かっているんでやる必要ないんじゃないかな、と思った。ミスマッチですよ、完全に。しかし、関東学院でスタートした時、すべてがミスマッチだった。そこで原点に戻ろう、挑戦の気持ちが大切だ、それが日本のラグビーをレベルアップする方法の一つではないか、と考えました。試験のあとでコンディションは悪い。けがはこわい。で



山崎 浩子 Hiroko YAMAZAKI

1960年、鹿児島県生まれ。高校時代に新体操を始め、1984年ロサンゼルス・オリンピックで8位入賞。現在はスポーツライターとしてさまざまなスポーツをカバーし、雑誌、新聞に連載中。競技者としての経験を生かし、選手の心理に迫っている。一方、言葉を一切使わず、肉体のみで感情表現し、ストーリーを開拓するダンスマニアの舞台にも挑戦。今夏、大阪で開催される新体操の世界選手権での日本選手の活躍を楽しみにしている。1995年にAJPSに入会、広報委員会所属。

も強いチームとやりたいんですよ、選手は。それがスポーツの原点でもあるわけです。

藤島 日本選手権、ラグビーの場合社会人vs.学生という試合は絶対にあったほうが良いですよ。だいだい社会人はピークでしょ。パブル的にも経済的にも。長い目でみれば、大学を特別扱いしているけど、日本ラグビーのために良いでしょう。日本ラグビー百年の計のためにも。大学を弱いセカンドグレードと位置づけ、シニアじゃない、としたら高校生がラグビーをしなくなります。春口 そのとおりで、僕は普及の面では必死です。

藤島 大学に魅力がないと日本のラグビーは滅びますよ。それには多くの企業のラグビー部も廃部とか多いです。企業がいつまでもスポーツのために金を出すかというとそうでもない。景気に関係なくやっている大学のほうが可能性がある。

山崎 さて、ワールドカップの話に戻りたいのですが、日本代表はどの程度やれるでしょうか。前回はニュージーランドに17-145という大敗があったわけですが。

藤島 過去3回の成績は9戦して1勝8敗です。実力的にはかなり差がある。いってみれば日本選手権の学生と社会人の対戦のようなものです。

春口 まさにミスマッチかな。でも日本選手権と同じでこれも挑戦です。エイト制でもあれば軽量級のチャンピオンになれるんでしょうが、ラグビーは無差別級しかない。試合をしてみて、はじめて差が分かるんです。その経験はものすごく大切です。

山崎 弱いから遠征に行かせない、という競技団体があったんですが、それだといつまでたっても強くなれない。実際に強い人たちと試合して衝撃を受ける。そこから新しい道が開けると思います。

春口 それを繋いでいくことが文化の継承だと思います。我々ができなかったことを次の世代に受け継いでいくことが教育だと。いつかは強く

なれることを信じてね。

藤島 僕はジャパン、勝ちにいくべきだと思います。ジャパンという頂点は一般的な集団であるべきではないと考えています。特殊な集团でいい、小股すくいだろうが目潰しだろうが、やっぱり行ってやってやるという気迫を持つべきだと思う。実際、ものすごいチャンスですよ。今回は、ウェールズが全勝する可能性が高いから1勝2敗でも上に上がるチャンスはある。サモアもアルゼンチンも日本では高く評価しきれています。たしかにパシフィックリムとは違うでしょうが、パシフィックリムも行くわけですし、命がけで行けば活路も開けるというものです。そういう緊張の継続こそが文化を生んでいくんです。

山崎 参加することに意義があると思っていく人は、あまりいないと思いますよ。参加することは意義があると思うんです。

藤島 普及ということを考えても今年はチャンスです。勝負の年です。意外なことですが、ラグビーのワールドカップはオリンピック、サッカーのワールドカップにつぐ世界でも第3番目のスポーツイベントだそうです。その高いステータスの大会で活躍すれば、再びラグビーチームが訪れるかもしれません。

山崎 そういう意味では、本当にワールドカップ・イヤーの今年はラグビーのステータスをあげるチャンスですね。

春口 ステータスというのは、見返りがあるとか、大金が手に入るということじゃないんです。多くの人が「よくやったな」と認めてくれることだと思います。何のものにも変え難いプライド、それに対するみんなの想い、そんなものがステータスだと思います。

山崎 ラグビーのステータスがますます上がることを祈りながら、この座談会を終わりにしたいと思います。長時間、ありがとうございました。

(構成・白庭隆幸)

# PHOTO & ESSAY by SHINJI AKAJI



## ROVING PHOTOGRAPHER |

写真と文：赤木 真二

会のプレス担当はまるで小学生に対する先生の様な口調で我々にその説明した。5人いた日本人カメラマンは全員そのビデオをもらい、ジャパンの大盤振舞に心を踊らせながらサイドラインをROVINGしたのだった。

ROVING=自由に動く、うろうろする、と言う意味を辞書で引いたのはだいぶ後にあってのことだ。初めてこの言葉を聞いたのはラグビーの代表チームたるカーディフのアームスバークだったと思う。「ロービング、タックス」を動けるロービング、「オトグラフ」がこのビデオを着なさい。インゴルツーム間に移動する場合は立て看板の後ろで壁をつきなさい。」ウェールズ・ラグビー協会で待っているような退屈な撮影は初から考

えもしなかったし、それだけの良いレンズも持ち合わせていないから、条件の悪い時でも合羽を着て、レンズにカバーをつけてサイドラインをROVINGするのが楽しかった。1987年、準決勝を迎えた第1回ラグビーワールドカップ。ラグビー強国の対戦で我々にロービング・フォトグラファーのビデオは回っただけでなかった。それ以来、インゴルツーム裏に座ることもしばしばある。しかしラグビー場でカメラを構えると知らず知らずのうちに気持ちがROVINGしている自分に気が付く。

ROVING=小學生に対する先生の様な口調で我々にその説明した。5人いた日本人カメラマンは全員そのビデオをもらい、ジャパンの大盤振舞に心を踊らせながらサイドラインをROVINGしたのだった。1987年、準決勝を迎えた第1回ラグビーワールドカップ。ラグビー強国の対戦で我々にロービング・フォトグラファーのビデオは回っただけでなかった。それ以来、インゴルツーム裏に座ることもしばしばある。しかしラグビー場でカメラを構えると知らず知らずのうちに気持ちがROVINGしている自分に気が付く。

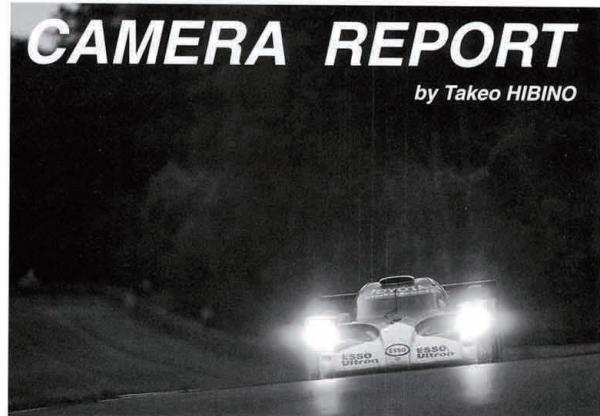
# DIGITAL

# CAMERA REPORT

by Takeo HIBINO

デジタルカメラを取り巻く環境は日進月歩。画像処理ソフトも日々進化しています。今やデジタルカメラによる撮影で雑誌のカラーページを構成することもありました。今回のDIGITAL CAMERA REPORTでは、雑誌「JUBILANT」の撮影、制作、編集まで手がけておられる日比野武男氏に登場していただきました。キヤノンEOS・D6000の600万画素のクオリティ、その特徴、利便性そして将来性を語っていただきました。

協力：キヤノンサロン



D6000 560mm F7.1 1/250 ISO 80  
in Le Mans 24H '99

## スポーツ写真の現場でのデジタルカメラの導入

デジタルカメラを使うようになって4年が経ちました。デジタルカメラは発売された頃から知っていましたが、当時は自身、コマーシャルの仕事が中心でありカメラもラージフォーマット8×10、4×5の撮影が中心でした。仕事がら印刷とは関わりが深く、どうしたら綺麗な印刷ができるフィルムが仕上げられるか、どう撮影すればどういうフィルム表現をすれば良い印刷物ができるかずいぶん鍛えられました。

商業印刷もアナログからデジタルに切り替わる頃で、製版カメラかスキヤナカ、普通のドラムスキャナーには4×5は巻けるけれど8×10は大きすぎる、ボラロイド8×10はドラムスキャナーに巻けるので使える等、自分ではコンピューターに触れませんでしたが印刷所、カラーエンジニア等でデジタル合成・色出し等の作業をディレクションさせて頂いてきました。自分の撮影した写真がいろいろ変わっていく様、広告表現として最新技術を駆使してより良い作品ができる様を目の当たりにしてきました。

機材が変わればカメラは道具ですから扱い方が変わります。しかし撮影するという行為はデジタルカメラでも変わらないはずです。ただデジタルになると撮影者の責任が増え、撮影後の流

れがフィルムの場合とは全く違ってきます。今迄ですと現像というプロセスを経てフィルム、プリントという形になって色、コントラスト、構図などが見られる状態となっていましたが、デジタルカメラの場合は撮影後も写真としては形あるものになっておらず、デジタル化された画像データが残っているだけです。コンピューターを使って画像を開くという作業をして初めて写真の状態になる訳です。

## 高画質、そして速報性

印刷使用の写真としては、同じレンズを使ったカメラセットですとデジタルカメラの方が高画質の印刷出力が得られます。通常ボスターA3サイズで175線、フルカラー4色印刷で全面写真で作成すると8ビットで約100MBのデータ量になります。8ビットとは1版当たり256階調で表現できるもので、RGB 8ビット1670万色の表示可能と言うことで、RGB 各256×256×256階調で1670万色になるのですが、今のところこのスペックで商業印刷は行かれています。これはデジタルカメラのデータでもフィルムでも変わらないことです。デジタルカメラの画素数とフィルム面積は同等に考えられ、撮影するさいのサイズを写真家は選ぶことができます。大きいフィルムを使えば細かなところまで表現できるのは皆さん御存知のとおりです。そして印刷物に

しか使わない場合、フィルムサイズは比較的簡単に決めることができます。印刷線数と印刷面積、簡単な算数の計算で面積当たりの粒子の数で細かな表現ができるかどうか割りだせます。もちろん写真の表現が数値だけで決まる訳ではないのですが。

スポーツの現場では機動性、撮影カット数等の面で35mmの一一眼レフカメラが主流です。このサイズですとやはり印刷限界があって、それをこえる拡大は線数と粒状性の問題が出てきます。現在ではボジスキャンした後、製版の前にデジタル目のぼしコントラスト調整、シャープネス調整、カラー調整等デジタル技術の進歩で綺麗な印刷がされています。つまり、我々は既にデジタル技術によって作品を発表しているのです。撮影者自身が実際画像データを受け渡ししないだけで実作業は以前からデジタル画像で行われているのです。デジタルカメラは撮影した画像を最新技術で簡単に綺麗な映像を生成する便利な道具とい一面もありますが、また報道現場等から一刻も早く写真映像を人々に伝達する道具としての使われ方にこそ最高の価値があります。テレビニュースがそうであるように、いくら印刷技術が進んでも印刷媒体はテレビの報道伝達スピードにはかないません。しかし現在ではサッカーなどスポーツのフィールドでも写真家、特に通信社・新聞社の方はデジタルカメラ、ノート型パソコン、携帯電

話を使い得点シーンなど紙、誌面を飾るであろうシーンが撮れた瞬間、直ぐさま撮影を中断しカメラからカードメディア、記録媒体を抜き取りパソコンで画像確認して送信と、わずか3~4分の作業で写真を社に送りはじめます。慣れてくれば写真の確認後、送信迄1分を切ることも可能で、後はパソコンに任せてまた撮影に戻ることができます。

## キヤノンとのマッチング

私が使っているデジタルカメラはキヤノンEOS・D6000(600万画素)D2000(200万画素)です。最新式のカメラはバッテリーも交換できるようになったり、カメラの後ろで撮影した画像の確認ができます(カメラバックに1.8インチのモニターが付いている)連写が可能になったりと、本当に使い勝手は良くなりました。当初デジタルカメラを使おうと考えた時でも選択肢は現在ではないにしきりつつもありました。しかし自己表現の手段として「誰が撮っても同じ」カメラでは満足できませんでした。赤ちゃんの肌、おばあちゃんの肌は違うはず。表情・姿形は違うのですが肌の質感とか微妙な色の変化等、私なりのこだわりがあります。暑っている時に、人の肌って全然違っているはずなのです。私が思うカメラとは有りのままを素直に何も手を加えず正確に記憶する道具なのです。ソフトはどんどん進化しコンピューターの演算能力はどんどん高まり、肌色の平均化、演算など容易なことで、CCDで写し出された画像の均一化など本当に簡単に綺麗に処理してくれます。しかし手を加え過ぎて何を撮っても同じにしか写らないカメラは私は必要ありませんでした。

以前、キヤノンのデジタルカメラの開発をなさっている方と話す機会がありました。「カメラメーカーとしてはカメラの前に有る事象を正確に写すカメラを作っていく。何を撮り何を表現するかは写真家、撮影者の仕事でその道具がカメラ。そのお手伝いをするのがキヤノン」と言うお話を伺いました。そのキヤノンの姿勢と私の考えが一致したからこそ、私はキヤノンのデジ

ルカメラを使用しているのです。そして、それを用いて私はスポーツ・フォト・マガジン「Jubilant」を発行しています。フィルムでの表現よりデジタルカメラで撮影した作品の方がより良く伝えられる感じ、取り入れたのです。将来的には世界的な配信サービスを始めていきたいと思っています。

スポーツの現場では撮影条件も異な



D6000 400mm F2.8 1/200 ISO 80  
in San Marino GP '99

り暗かったり、室内照明の色温度が複雑でカラー表現が満足できない等、フィルム撮影で苦労した経験がありましたが、デジタルカメラだとこれらが簡単にクリアできました。CCDは色に対してはけっこう柔軟に対応してくれるからなのですが、暗い室内でもフィルターでカラー調整しなくても良い色が出来ます。フィルターを使わなくて色が出来るのでファインダーを覗いていても違和感なく、実効感度も変わらなくシャッター速度を落とさなくてすみ、選手の動きも止めやすくなります。また粒状性、いわゆるCCDの画素数が高まり600万画素のスペックだとプローニーサイズのフィルム位の表現力になると判断しています。このサイズになりますとJubilantの2ページ分(A3見開きですが)を十分なクオリティーで表現できます。このサイズで充分と言ふことは商業印刷でA全ポスターを作成できるサイズということです。広告にも使えるサイズのスポーツ写真が撮影できるデジタル一眼レフカメラが誕生したことになります。

フィルムで撮影した時、現像があが

ってくるまでのドキドキ感、フィルムに写し出された画像が美しく結像されたのを見た時の充実感は写真家にとって至福の時ですが、デジタルカメラの場合は、言わば露光済みのフィルムをそのまま保存できるようなもので、コンピューターで画像を開いた時が現像を終えた時になり、聞くソフトが変われば現像をやり直すことができるのです。これは画期的なことです。写真を使う度にフィルム現像ができるのですから何年経っても現像のやり直しがきくのです。

現在、私の使用感ではキヤノンEOS・D6000の600万画素のカメラで撮影した画像はプローニーサイズと同等な写真表現が可能なクオリティですが、ソフトウェアの開発などにより将来的には4×5のフィルムと同等の表現ができるデータが生成できるようになっているかも知れないのです。今あるデータがもっと綺麗になるかもしれないなんて、本当に楽しみなことです。

## 雑誌面のデジタル化

ここで、F-1での現状を少し御紹介いたします。日本国内でも速報雑誌が出版されていますのでお分かりかと思いますが現場では殆どの方がデジタルカメラ、フィルムカメラ両方をお使いです。

新聞社の方は撮影後、ネガフィルム現像を済ませスキャナーで画像を取り込み送信します。30分位の作業です。デジタルカメラの場合だとすぐさま写真をセレクトし送り始めます。写真をリサイズし圧縮し、送信と同時に電話回線モードを使い送ります。デジタルカメラの写真サイズは200万画素でフォトショップ等で開いた画像は5.7MB、このまま送りますと15分程かかりますが、圧縮をかけば1/8で、700KB位に小さくすることができます。送信時間もそれだけ短くすることができます。デジタルカメラだとフィルム現像とスキャニングする時間を短縮することができます。

通信社の方は写真をセレクトする迄は同じですが、フォトディレクターが現場に赴きそこで写真のトリミング、

画像調整、カラーコントロール、リサイズをして配信サーバーに送ります。ここ迄の作業を1人の人間がノートパソコンで作業し、たった3~4分で1カットの写真が配信社を通じ世界中に配信されます。F-1速報雑誌の方がデジタルカメラを使うようになって一番大変になられた様子です。皆さんデジタルカメラでの撮影は新聞社の方と同じなのですが、使われているカメラの画素数が違うのです。新聞社・通信社の方はEOS・D2000もしくは同等の200万画素の機材のに対し、雑誌の方々はEOS・D6000（600万画素）のカメラをお使いになっておられます。雑誌サイズだと綺麗に印刷できるからですが、このサイズの違いが作業に大きく影響します。単純に時間が3倍掛るのですが、同じ性能のコンピューターを使用しますと、画像を開きセレクト、カラー調整、トリミングなど総ての作業時間が画素数に比例して増えてしまいます。200万画素の作業が3~4分ですと600万画素では9~12分になります。作業内容によって多少違いますが、送信速度もかかる時間は本当に200万画素の3倍掛ります。フォーミュラ1のプレスルームではいつも最後迄作業なさっているのが速報誌関係の方々でした。伺ってみると現場での作業は増えたそうですが、月曜日に現地を発ち日本に火曜日に戻り編集部に顔を出すと校正が見られる事です。よって今迄金曜日発売だったものがデジタルカメラになって木曜日になったそうです。たった一日と簡単には言えない程凄いことだと思います。新聞は本当に時間との争い。ミスは許されず1分1秒を争っています。ニュースとはそう言うものであり、多少画質は劣っても600万画素よりは200万画素の方が格段に効率が良いと考えられ皆さんD2000を使用なさっています。

画像処理ソフトも日々進化しており、画像補完技術も良くなっていますから新聞の紙面でも大きな写真がフィルムでの入稿よりも綺麗に写し出されています。実際、我々がデジタルカメラで撮影した原稿をニュース紙面ではなく15段広告を使って頂いています。クライアントの御理解のもとできたわけですが、フィルムで入稿した原稿と

全く変わることなく表現できています。

現在、キヤノン銀座フォトサロンの2階に新しくデジタルハウスが設けられています。私も何度も活用させているのですが、そこにはキヤノンのデジタルカメラデモ機が置いてあり、そこで使用感をテストでき、また出力機もレーザープリンター、インクジェット・サーマルプリンター等各種サイズの出力が可能になっています。また作例としてキヤノンデジタルカメラでの仕事として各種新聞、雑誌等で掲載されている写真も見ることができますので自分のしている仕事分野での展開も、環境をプランニングすることも相談できること思います。

### マックか？ ウィンドウズか？

デジタルカメラを使うことで変わることは最初の投資としてはかなり高額なこと、そして何よりパソコンを導入しなければならない点です。通信及びネットワーク環境ではDOSもウィンドウズもマックも共存が可能なので、使用目的、作業内容によって使い分けが可能です。一般的には画像データを伝送するだけならウィンドウズ、画像の色にこだわったり、印刷時の色補正を行なうのであればマック、というように見受けられます。新聞社の方々はウィンドウズマシンを使っておられます。カラーコントロールを印刷レイアウトの場で行なうのでカメラマンが写真的のカラーコントロールをする必要性がないからです。

私は作業のほとんどをノート型のマックでこなしますが、これは印刷所と同じカラーマッチングを行なっているためです。そして、それ以上にノート型に用いられている液晶パネルの発色が私の目には印刷された誌面の写真と同じ色調に整えやすいからです。本当に液晶パネルで覗くと同じように写真が印刷されます。CRTモニターブラウン管のモニターだと透過光の影響が発色が綺麗なのですが、印刷するとややもすると違う色になってしまうことが多く感じられました。いくらキャリブレーションをとってもモニターで覗いている時の方が美しく、実際に印刷するところ

どうしても沈みがちな発色になってしまうのですが、液晶パネルのモニターだと同じか、むしろ印刷の方が綺麗に見えるのです。印刷をお願いして仕上がったものが自分の考えていた以上に綺麗に仕上りますので嬉しい気分になります。こんなものかと思うより、随分幸運な時間を味わうことができるのです。

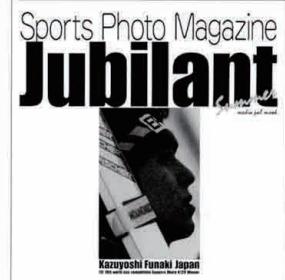
現在、デジタル入稿は、RGBでCMYK変換は、印刷所任せが一番確実の様です。これは制作者の意図が十分伝わらず製作環境の違い、ソフト・ハードの違い等、仕上がりが制作者・印刷所ともども納得できない為ですが、近い将来、皆が同じレベルのRGBよりCMYK変換テーブルを使うようになれば、デジタルカメラの写真が報道、そして芸術の分野に置いてもますますの重責を果たすようになってくると思います。

最後にデジタルを取り入れるのであれば柔軟な取り組みと、理解力。そして最高のものを求めて自分の手で創造する想い。飽くなき探究心を持ち続けることです。コンピューターを触っていれば、人間の素晴らしさが時間とともに解ってくるはずですから。デジタルの世界はまだまだ発展途上です。職人技にはかないません。

\*CCD：(Charge Coupled Device)の略。光の強弱を電気信号に変える受光素子。

\*RGB：赤RED・緑GREEN・青BLUEの欧文頭文字。加色混色の3原色。

\*CMYK：インキの3原色（シアン・マゼンダ・イエローの欧文頭文字）と黒。



SPORTS PHOTO MAGAZINE 「JUBILANT」では、全ての写真の仕上げをパワーブックG3で完成させております。NO.2は全国の書店でお買い求めいただけます。  
連絡先：(株)マニ 03-3722-7377

# Information

## ミノルタ

「AFホテレ マクロ200mm F4G」  
〔希望小売価格￥210,000〕新発売

連続で無限から等倍撮影までのマクロ撮影が可能な大口径・高画質の望遠マクロレンズです。等倍撮影時の最短撮影距離は50cm、近づき難い小動物・昆虫や、近寄れない被写体の接写には、特に威力を發揮します。

### 【主な特長】

#### ●AD(異常分散)ガラスの採用

無限遠から等倍まで、開放絞りからコントラストの高い鮮明な画像が得られます。

#### ●円形絞り採用

本漏れ日など、点光源のボケの形状を円形にし、美しいボケ味を実現しています。

#### ●独自の自動クラッチ機構の採用によりAF時には、フォーカスリングが回転せず、良好なホールドが可能です。

#### ●フォーカスホールドボタンを装備

AF撮影時にピント位置を固定できるフォーカスホールドボタンを設けました。

#### ●着脱式の三脚座を採用

レンズ自身を三脚に固定できる三脚座を装備しました。三脚を使用しない場合はレンズから取り外せます。



## コダック

「コダックプロフェッショナルDCS620デジタルカメラ」  
〔ニコンF5ベース〕を新発売

「コダックプロフェッショナルDCS620デジタルカメラ」（5月17日新発売、メーカー希望標準価格209万円・税別）は、ニコンF5のカメラボディに、200万画素のCCD、ITOセンサー\*1を搭載した業務用一眼レフデジタルカメラで、ニコンのアクセサリーとの互換性があります。縮小光学系\*2を採用することなくWYSIWYGビューファインダー\*3を実現しており、使用するレンズのF値に制限を受けることもありません。また、ISO200~1,600相当の感度設定が可能で、劣悪な撮影条件下においても、高画質で迅速、確実な撮影を、低成本で実現します。

また、カメラ背面に液晶カラーモニターを装備しており、撮影した画像データのヒストグラム（画像データの階調分布グラフ）を即

座に表示することができます。この機能により、撮影したその場で露光状態を確認することができ、撮影効率を飛躍的に向上させることができます。また、納期の短縮やコストの削減など、ワークフロー（一連の作業行程の流れ）の生産性を大幅に改善することが可能になります。さらに、毎秒3.5コマで、最大12連写までの高速撮影も可能です。

DCS620は、新聞社や通信社などの報道写真市場、近年急速に需要が増加している製版および印刷市場、商業印刷を目的とした写真撮影、ポートレートスナップ、企業や官公庁、医療現場における業務効率の改善や、研究開発を目的とした画像解析などの用途が見込まれます。

### 【主な特長】

200万画素のITOセンサーを搭載、さまざまな用途において高画質なデジタル撮影を実現。ISO感度200~1,600相当。ニコンF5の機能と操作性を継承。F5の交換レンズやアクセサリーとの互換性。毎秒3.5コマで、最大12連写まで可能。1.8インチ液晶カラーモニターを装備、画像データの確認や各種機能の設定が容易。ヒストグラム表示機能により、撮影したその場で即座に露光状態の確認が可能。ハイライト表示機能搭載。着脱式リチャージャブルバッテリーシステムを採用。高い機動性を実現。Lossless圧縮\*4、TIFF/EPフォーマット\*5。高速シリアルインターフェースIEEE1394を搭載。

\*1 ITOセンサー：表面の素材をボリシリコンに代えてIdium Tin Oxide (ITO) を使用することで人間の目が捉える視覚により近い現実特性を持ったCCD。ボリシリコンは短波長域の光成分を吸収するために十分な青感度が得られないという特性があったが、ITOを使用することで従来の約1.5倍の青感度が得られるようになった。

\*2 縮小光学系：CCDは、35ミリフィルムに比べて表面積が小さいため、オリジナルカメラのフィルムが装填される位置にCCDを配置する構造では、レンズからの入射光の一部しか記録できない。また、ファインダーも周辺部の視野がカットされてしまうため、焦点距離にズレを生じてしまう。これらの問題を光学的に補正するのが縮小光学系だが、使用できる絞り値が制限されたり、画像品質に悪影響を及ぼすなどの反作用がある。

\*3 WYSIWYGビューファインダー：ビューファインダーで見たままの画角が画像データとして得られる。

\*4 Lossless圧縮：画像劣化の伴わない圧縮方式。

\*5 TIFF/EPフォーマット：コダックオリジナルの画像フォーマット。  
<お問い合わせ先>

ユーザー：プロフェッショナル事業部インフォメーションセンター  
TEL(03)5644-5040



## ニコン

「ニコン デジタルカメラD1」

(希望小売価格￥650,000・税別) 9月末発売予定

「D1」は、総画素数274万画素、23.7×15.6mm大型原色CCDを搭載し、高精細な画像を実現しました。ほとんどのニッコールレンズが使用でき、ニコン35mm一眼レフカメラの表現力により近づいた撮影が可能です。また、約4.5コマ/秒、最大21コマ連写可能な高速連写、最高速1/16,000秒のシャッタースピードなど、圧倒的な高速性能を発揮。報道をはじめあらゆる分野でその威力を發揮する、プロフェッショナル仕様のデジタルカメラです。

### 【主な特長】

高精細。総画素数274万画素、23.7×15.6mm(1/2インチCCDの約12倍の面積)大型原色CCDを搭載。3D-デジタルマトリックス・イメージコントロール。1,005画素のCCDセンサーからの詳細な情報をベースに、3D-RGBマルチパターン測光、TTLホワイトバランス、階調補正をトータルにコントロールし、高品質の最適化されたデジタル画像を実現。独自開発の信号処理により、偽色のない画像を提供。ほとんどのニッコールレンズが使用可能なレンズ互換性。多くのアクセサリーも使用可能(D1の実撮影画角:レンズ表記の約1.5倍の焦点距離に相当)。圧倒的な高速性能。約4.5コマ/秒の高速連写(21コマまで連写可能)。最高速1/16,000秒のシャッタースピード。高速シングロ1/500秒。リザースタイムラグ約58msec。新開発ASICによる高速データ処理。高速データ転送を可能にする、IEEE1394インターフェース。Nikon F5、Nikon F100同等の多彩な機能。優れた操作性、機動力。SB-28DXとの組み合わせで、被写体と背景の明るさをバランスよく撮影できる。新開発「D1専用マルチBL測光(TTL)」。ヒストグラムの表示も可能な、2インチ低温ポリシリコンTFT液晶モニタ。パワフルな専用ニッケル水素充電池のリチャージャブルバッテリーEN-4(別売)。JPEG(圧縮比:3段階)および3種類の非圧縮記録方式から用途に応じて選べる、充実の画質モード。色モアレ防止のため、新素材薄型ローパスフィルターを内蔵。



★ ★ ★

## コニカ

「コニカ フォト・プレミオ ~21人の新しい写真家登場~」

コニカ画像科学振興財団は、「コニカ フォト・プレミオ ~21人の新しい写真家登場~」を創設いたしました。本賞は「コニカ写真激励賞」と「新しい写真家登場」を発展的に統合し、写真制作意欲および写真表現技術に富む若い方々に対し、作品発表の機会を提供するとともに、その活動を奨励することを目的としています。

### 募集形式

：年間4回の申込締切、選考会を経て、年4期分の発表写真展を提出します。年度(4月~翌3月)の全ての選覧終了後、年度選考会を実施し各賞を決定。大賞、特別賞受賞作品について、翌年度の6月に受賞アーカイブ展を開催。

：大賞1名(奨励金100万円)、特別賞2名(奨励金各50万円)、入賞21名(奨励金各10万円)(全受賞者には、上記の奨励金の他、選覧作品を掲載したポートフォolioを進呈します)

：各期展示は、原則毎月下旬(会期約10日間、若干の長短あり)に東ギャラリーで2名同時開催。大賞および特別賞の受賞アーカイブ展は、翌年度6月に西ギャラリーで合同開催。

：資格および要件：応募年度において日本国内に在住する35歳以下の写真家、または写真家を志す方で、自ら制作した写真作品による発表(写真展)が可能である方。

：応募作品の定義：写真作品とは、本人が制作した写真、または写真をベースとしたビジュアル作品とします。写真作品は、その著作権の全てが本人に帰属するものに限りません(制作途中に第三者が介在し、一部でも第三者に著作権が発生しているものは除きます)。

：応募方法：所定の申込用紙に必要事項を記入し、展示予定作品を確認できるカラースライド、またはプリント(六つ切り相当)30点前後を、下記に持参、または送付してください(カラースライドの場合は、ガラスマウントをご遠慮ください)。他のギャラリーや公募との多重応募はご遠慮ください。

問い合わせ先：「コニカ フォト・プレミオ」写真展応募係  
電話：03-3225-5001  
応募用紙とパンフレットは、AJPS事務局にもあります

★ ★ ★

## PENTAX

中判AF一眼レフカメラ用交換レンズ、  
「SMCペンタックスFA645」レンズ3機種新発売

レンズ交換式の中判カメラでは世界初のオートフォーカス機構を採用した「ペンタックス645N」は、スポット・中央重点・デュアル6分割測光機能、画面外の撮影データ記録機能、オートブランケット機能などの先進機能に加え、スポット測距・3点測距の選択が可能なAF機構、そしてダイヤル操作方式の採用などによって、中判カメラとしては他に類を見ない多機能・高性能を使いやすさを実現した「スーパー・フィールドカメラ」です。

発売以来、多くの写真愛好者の支持を得るとともに日本の「カメラグランプリ98」をはじめ、欧州のEISA、TIPAの両カメラ賞を受賞するなど、世界で好評を博しています。

また、「ペンタックス645N」は、SMCペンタックス645交換レンズとの完全互換を実現しており、ミュアルフォーカスレンズを使用した場合には適切なピントを捉えたときに合焦マークが点灯するフォーカスリングケーター機能を備えています。

今回の交換レンズ3機種の発売によって、オートフォーカス対応のFAレンズは8機種、645用の交換レンズ群としては全21機種となり、ラインアップの充実によって撮影意図や目的に最適なレンズ選択を可能にしています。

### 表彰

：大賞1名(奨励金100万円)、特別賞2名(奨励金各50万円)、入賞21名(奨励金各10万円)(全受賞者には、上記の奨励金の他、選覧作品を掲載したポートフォolioを進呈します)

：各期展示は、原則毎月下旬(会期約10日間、若干の長短あり)に東ギャラリーで2名同時開催。大賞および特別賞の受賞アーカイブ展は、翌年度6月に西ギャラリーで合同開催。

：資格および要件：応募年度において日本国内に在住する35歳以下の写真家、または写真家を志す方で、自ら制作した写真作品による発表(写真展)が可能である方。

：応募作品の定義：写真作品とは、本人が制作した写真、または写真をベースとしたビジュアル作品とします。写真作品は、その著作権の全てが本人に帰属するものに限りません(制作途中に第三者が介在し、一部でも第三者に著作権が発生しているものは除きます)。

：応募方法：所定の申込用紙に必要事項を記入し、展示予定作品を確認できるカラースライド、またはプリント(六つ切り相当)30点前後を、下記に持参、または送付してください(カラースライドの場合は、ガラスマウントをご遠慮ください)。他のギャラリーや公募との多重応募はご遠慮ください。

### 「SMCペンタックスFA645ズーム80-160mmF4.5」

(メーカー希望小売価格195,000円・税別) の特長

#### ●シャープな描写性能

特殊低分散(ED)ガラスや異常低分散ガラスを使用することで諸収差を良好に補正しコントラストの高いシャープな画質が得られます。また、レンズの内面反射を効果的に防止するゴーストレスコートを施し、不要な外光をカットする花形フードを採用しています。

#### ●直進式焦点調節

焦点調節してもレンズ先端が回転しない直進式を採用しているので、偏光(PPL)フィルターなどレンズ先端に装着して使用するアクセサリーが使いやすくなっています。

#### ●フィルター回転操作部の新設

フードを装着した状態でレンズの先端を外側から回転できる、フィルター回転操作部を新たに設けてあります。フィルター棒に取付けで使用する偏光フィルターなどのアクセサリーが快適に使用できます。

### 「SMCペンタックスFA645マクロ120mmF4」

(メーカー希望小売価格135,000円・税別) の特長

#### ●オートフォーカス機能の採用で容易なピンと合わせ

屋外撮影に最適な焦点距離120mmを持つ中望遠マクロレンズで、中判カメラ用では初のオートフォーカス機能を採用したことによって、接写撮影での難いピンと合わせを容易にしています。

#### ●高い描写性能

フローティング機構や独立移動する絞り機構と異常低分散ガラスの採用で、焦点調節による収差をはじめ諸収差を良好に補正し、無限遠から最短距離撮影まで均質でコントラストの高いシャープな画質が得られます。

### ●その他

最短39cmまで近くが撮影でき、最大で8倍の撮影ができます。フォーカスリミッターの採用で合焦距離の範囲が切替えられます。

### 「SMCペンタックスFA645 200mmF4 [IF]」

(メーカー希望小売価格95,000円・税別) の特長

#### ●コントラストの高いシャープな描写性能

前玉に2枚の異常低分散ガラスを使用することで色収差と画面収差を良好に補正。加えてレンズの内面反射を効果的に取り除くゴーストレスコートを施すことで、コントラストの高いシャープな画質が得られます。

#### ●スピーディーな合焦

焦点調節にインナーフォーカス[IF]機構を採用したことで、オートフォーカスの合焦速度が向上するとともにマニュアルフォーカスでのピント合わせも素早く行えます。また、フォーカシング時にレンズ全長が変化しないため、快適な操作感が得られます。



### ●新刊紹介

#### 『残された山靴』

(山と渓谷社 定価1,500円)

故佐瀬稔氏の遺稿集。江夏豊氏が「熱い心と冷めた理性」という序文を寄せている。内容は「志なかばで逝った八人の登山家の最終行程を描いたもの。グランド・ジョラス北壁の生と死=森田勝、エベレストの雪煙に消えた山の貴公子=加藤保男、時代を超えた冒險家=植村直己、など、佐瀬氏の禮夫人による最終章に在りし日の大先輩の姿が浮かび上がる。

### 新人会員紹介

次の4名が5月13日の総会を経て正会員となりました。

明田和也 望月仁 中野英聰 田尻格

なお、小林隆子は保留で、次回の理事会出席を経て正会員となる予定です。

### 退会者報告

上柿和生(理事会にて退会届けを受理)

佐瀬 稔(昨年5月23日永眠)

### 日本スポーツプレス協会会報 No.17

1999年7月15日発行

編集・発行人

水谷 章人

編集スタッフ

白庭 隆幸 山崎 浩子 田尻 格

編集協力

竹内 里摩子 荒川雅臣 赤木 真二

編集・発行所

萩原 英士 日本スポーツプレス協会(AJPS)

〒112-0013

東京都文京区音羽1-21-10 開根ビル602

TEL 03-3946-9033

FAX 03-3946-9036

E-mail : ajpsjim@ibm.net

本誌掲載記事、写真を無断で転載することはできません

白庭 隆幸

昨年の役員選挙で理事に選ばれ広報委員会を担当することになった。フトグラフーを中心に発展してきた当AJPSで、ライターから理事に選ばれたのは史上わたしが初めてだそうだ。責任の重さを感じ入るしだいある。そんなわけで、この会報発行の仕事も私の仕事になった。

世の中はたいへんな不況である。そのせいでもないが、私には時間がたっぷりあり、皮肉にもかなりの時間と精力を会報発行に注ぐことができたが、なにぶん初めてのこと。前編集長・赤木さんの協力のもと、予定より1ヶ月遅れでなんとか発行にこぎつけた。

2年目の発行ということで、なかなか難しいことが多いが、20世紀から新世紀にまたがる意義ある瞬間に、AJPSならではの会報を発行しよう、今後ない知恵を絞っていこうと考えている。できれば、来年度からは選ばれながらAJPSのホームページを開きたいと思っている。それには100名を越さんとする全会員のご支援が必要不可欠。ご協力のほどよろしくお願いします。

**Canon**

**CREATE**  
PRO-LAB FOR CREATIVE PROFESSIONALS

 **DESCENTE**

**FUJIFILM**



**HORIUCHI COLOR**

**Kodak**

日本スポーツプレス協会

**Konica**

**MINOLTA**

**Nikon**

**PENTAX**

SHASHIN  
**kosha**